

台湾工作機械情報

2017年10月15日

東海大学劉研究室

● 工作機械産業の困難直面 産業経済専門家による解決提案

工業技術研究院経済産業センター（IEK）は先日、2017年Q3の最新製造業趨勢模型CQMを発表、上半期世界経済情勢の明白な改善、加えて国際原油価格の回復、デフレ要素を徐々に減らすことで、台湾製造業の生産及び輸出が有利に、2017年製造業産額成長率が0.67%成長し3.87%に達すると予測した。

IEKは、2017工作機械産業が成長を維持する上での2つの異なる大きな挑戦、すなわち付加価値向上の困難、国際競争の激化を感じている。

前者の付加価値（Value added）率は「総産業値- 中間投資」対総産業値の比重（%）で、これは企業が生産目的を達成するために「生産要素（労工、土地、資本、企業経営）」を採用し、「中間投資（その他企業購買の原料、半製品や関連サービス）」の上に、新たに作り出す製品とサービスの価値である。台湾工作機械産業をもとに伝統機械設備業の一環として、価値率を3年連続20~22%に維持している。工作機械業付加価値を作り上げ、従業員の報酬を中心に、全体付加価値比率は50%を超えた。2015年为例にとると、台湾工作機械付加価値率は21.3%、製造業全体平均の28.5%より低い。資本支出比重は3.8%で全体平均の3.7%をわずかに上回った。

後者の要因は中小企業の研究開発エネルギーが有限であることだ。加えてダウンストリームの使用量が多くなく、台湾の工作機械をサポートするほどではないことだ。工作機械業者は終始「産業のレベルアップ」、「製品カスタマイズ化」の進歩と方向性に難儀しており、付加価値の向上は簡単ではない。ハイエンド市場において、ドイツ、日本のハイエンドな工作機械の特定機能を除いた「ハイエンド機種 of 低価格化」による価格競争、ベンチマーキングファクトリーEMG/MORI、Mazakがデータサービス、ソフト価値に向けて発展している。ローエンド市場は大陸に始まり、韓国 of ミドル階級の工作機械が相次いで「原産地ルール」や「関税貿易協定」など言った仕方で台湾国際市場の空間を縮小させている。新たなポジション確立を一刻も早く見つけたい。

工作機械に続いて伝統的な単体売り出しで利益を得るのはますます難航していくだろう。IEKは業界が次世代で新たな材料の需要、工作機械技術の発展、工作機械製造サービスの水準向上に対応すべきだとアドバイスしている。これは2017年台湾工作機械産業発展の主な方向性となる。スマート化ハイレベルの単機械の発展、オートメーション化生産ラインの進歩、台湾に「サービス志向の生産能力」を構築するなどすべきだ。

産業経済専門家は、工作機械の競争力は上がると期待している。台湾工作機械とパーツ工業同業工業会秘書長黄建中氏もIEKCQMは2017年に欧米市場で回復

の見込みがあると認めた。同時にIEKのアドバイスにも肯定の意を表したが、販売からソリューションビジネスライン案、DMG、Mazak方式の導入、サービスの徹底、各企業で異なる考えがあることも考慮すべきだと考える。成功例は東台グループが早期から専用の製造設備を利用して生産設備の標準化をとり始め、目下購買の対象も製造サービス力をかなり重視している。さらに顧客の需要に迅速に対応することで、程泰/亞崴グループ、協鴻、協易も同様にこのような構成で相乗効果をもたらすと期待する。

(出所：工具機與零組件雜誌，2017，NO.94 頁 72-75)

● 航空国防産業の飛躍的發展 国内外製造メーカーを引き連れ参加

世界の民間航空機トップ2であるAirbusとBoeingの予測によれば、今後20年で民間航空機市場の需要オーダーは38,050に達し、5.2兆米ドル相当の産業価値となる。もし航空企業の機体交換期を計算に入れば、世界の民間航空機の需要は倍に成長すると予想される。特にアジア市場の需要は最大で、航空産業は更に投入すべきニッチ市場で、近年台湾の航空産業の産業値も直線右肩上がりになっている。2016年の台湾航空産業は始めて1,000億台湾ドルを突破し、平均8%の成長率に達した。經濟部はここ3年来毎年国外メーカーからの50億元超の投資を促進しており、台湾航空産業メーカーは明らかに世界からの注目と承認を得ている。

しかしながら、世界の航空産業市場は新たな激しい順序替えの波が来ている。つまり、中国大陆、メキシコ、マレーシア、モロッコなど新興の航空産業集積が徐々に成長しており、今後市場競争に参加するということだ。その他にBoeing、GE、Sikorsky、BellとRRなどの国際民間航空機、ヘリやエンジンメーカーも台湾のサプライチェーンが現製品のままコストダウンし、100%期限の厳守、不良品のない品質の確保を要求している。そうしてこそ新たな業務の機会が得られるが、台湾の航空産業サプライチェーンの経営には厳しい試練となるだろう。

台湾産官学研各界は近い将来次々に同盟などを通して全力で市場を攻めていく。例えば台湾航空産業のトップである漢翔会社主導で成立した「A-I-M Team 4.0連盟」だが、スマート機械や原材料を共有し、工作機械及び金融業など300近い業者が参加、各産業の技術や能力を合流させて台湾が世界の航空産業で重要なサプライチェーン基地となるよう動いている。ちょうど二年に一度の「台北国際航空産業と国防工業展覧会」があった。台湾は世界トップ2に並ぶファスナー輸出国、今後10年あまりで産業はハイレベルに発展し、多くのメーカーが積極的に航空産業の認証を取り合い、台湾産業は航空産業の各領域で特色となるだろう。

(出所：工具機與零組件雜誌，2017，NO.94 頁 76-80)

● タイは南アジア向け工作機械市場

2016年台湾工作機械の主な「新南向」輸出市場（タイ、インド、ベトナム、インドネシア及びマレーシア）は、台湾輸出全体の14.41%を占めており、輸出金額は135.2億米ドルになる。タイは台湾工作機械の「新南向」市場最大の輸出国で、台湾輸出全体の3.76%を占めており、輸出金額は35.3億米ドルにのぼる。主な輸出製品は中国大陆とほぼ同様で、プレス成型工作機械、旋盤とマシニングセンターに分けられる。そこで、台湾の工作機械産業はタイの工作機械市場について先に分析し、タイの工作機械消費市場の需要状況を理解することで、我が国工作機械産業がさらに一歩タイ市場に踏み込めるように助ける。

タイ政府は国外製造業企業がタイの投資に参加するよう支持を大いに仰いでおり、国外の最先端技術に頼ってタイ自身の製造業が向上するよう願っている。海外メーカーがタイに入ることによってタイの製造業が有利に発展する機会となる。タイの自動車製造工業は主な産業の一つで、世界第9位、東南アジア第一位となった。多くの大型日本自動車製造メーカーがタイに投資しており、これらの自動車製造メーカーはタイを全世界に向けて輸出する自動車の製造及びエンジンの製造基地としたい。タイはアセアンの一体化市場として溶け込み、優位に突出している。引き続きタイ製造業を続ける中、自動車産業は工作機械などの機械設備にとって最もブームとなっている。

将来タイ政府は国内エコカーの発展を強化し続け、自動車の電動化で円筒型の関連パーツを増加する。旋回加工用旋盤の需要が将来的に増加すると予測し、引き続き省エネの発展に向けて自動車エンジンの効率改善を目標の一つとしている。工作機械技術を高精度に、小型化と省エネの発展、横型マシニングセンター及びその弾力性のある生産ラインで大量生産を可能とする。

（出所：工具機與零組件雜誌，2017，NO.92 頁 48-56）

- ・ **フォーラムが世界と現地をつなげ、ドイツ日本間の共同スマート機械タウンに建築に携わる**

台湾スマート機械産業の発展推進を実行するべく、遠見雑誌が經濟部を招待し、台中市政府など産官学が6月16日「2017スマート機械産業フォーラム」を開催、ドイツ、日本、台湾をスマート機械製造領域に招待、スマート製造関連技術と開拓の機会推進についてシェアした。世界と現地資源を結び合わせて共に台中市に世界的なスマート機械産業のタウンを建設する。

經濟部長の李世光氏は最初の挨拶の際、モノのインターネット（IoT）が第4回工業革命を促進し、スマート製造の環境に影響を与えたこと、ただ「+法」だけでは不十分で、「×法」の考えが必要であること、将来台湾に数十年来積み上げた精密技術、知識、経験とICT産業の有利かつ強固な基礎をもとにしたスマート製造を建設することを強調した。機械業はIoT機械制御の導入を促進、精密機械、工作機械、航空産業など現地の産業集積を連結し技術を深め、有効的なシステム・ソリューションを建てる。モノのインターネット製造サービス生態系

を形成し、ハイレベルな国際市場競争で優勢になれる。

台中市市長林佳龍氏はそれに応えてこう述べた。「現在台中市政府は「中台湾産官學研合作策略聯盟」を成立するほか、人材育成の強化、深い研究開発を進めている。また積極的に国際級の展覧センターを「水湳經濟貿易園區」で建設し、台湾のスマート機械産業創造の優勢を率いるべく、インダストリー4.0及びスマート生産ラインのモデル区などを推し進めている。」

車王電子の董事長蔡裕慶氏は一步進んでこう述べた。「スマート機械産業は成功の最大の鍵となる。オーナーが先頭となって、最新情報を途絶えさせずチームを常に良い状態に立て直すべきだ。」台中で4億を費やし推定、2年を割いてスマート製造モデル生産ラインを建設、企業自ら体験し政策を急ぐよう激励している。最も最良の生産を実現するべく、同時に組織を通して計画を進め、先に公協会でコンセンサスを集め、法人が台湾スマート製造産業が必要とする条件、知識、人材をサポートする。

(出所：工具機與零組件雜誌，2017，NO.92 頁 62-65)

● 2017年台湾工作機械上半期産業売上の振返りと年度の成行き

欧州工作機械工業連合会の報告によると、欧州輸出貿易の成長は顕著に持続しており、2017第一季は去年同期と比較して1.8%成長した；2017年欧州経済状況の回復力は強化されると予測、それは主にEU区の需要から拡張、ゆえに輸出にも成長が見られる。英国のEU離脱、米国の保護主義及び反移民政策、さらに今年はオランダ、フランス及びドイツの選挙波動などに面し、欧州の今後の経済貿易発展に影響を及ぼすものの、全体的に言えば世界の先行きには明るい展望がみられる。

2017年台湾工作機械1-6月の輸出総額は15.29億米ドルで、去年同期と比較して13.3%成長、その中で金属切削工作機械輸出の成長は13.9%、金額は12.72億米ドル、金属成型工作機械輸出成長は10.2%、金額は2.57億米ドルだった。

1-6月の輸出機種別から分析すると、主な輸出機種マシニングセンター輸出金額は10.3%増加、第二位の旋盤は去年同期と比較して18.2%成長した；平削り盤、立て削り、ブローチ削り、歯車型削り工作機械の成長は23.6%；放電、レーザー、超音波類工作機械の成長は31.5%；研削盤は11.4%下降、ボール盤、中ぐり盤、フライス盤、ネジ穴堀削機類工作機械は39.8%上昇した。金属成型工作機械の輸出の中でも、プレス、打抜成型工作機械は12.8%成長、その他の成型工作機械は0.4%減少した。

台湾工作機械輸出地区から見れば、2017年1-6月輸出国トップ10のうち、中国（香港含む）が第一位で輸出額は約4.44億米ドル、輸出総額35.1%を占め、去年同期と比較で30%成長した。米国は第二位、金額は1.36億米ドル、輸出の10.8%を占め、去年同期比較4.6%減少した。タイは第三位、金額5,131万米ドル、4.1%を占め、去年同期比較21.5%成長した。輸出全体では去年同期と比較して13.3%成長した。

【資料出典：本研究整理、単位：千ドル】

- キーエンスのソリューションビジネス(劉研究室)

東海大学劉仁傑教授は台湾の工作機械企業の要望に応じて、キーエンスの営業の仕方に関して、ソリューションビジネスとしてまとめた。その概要は次の通りである。中国市場がカスタマイズしていることは明らかにされたので、劉教授自身は、それを中国市場へどの程度まで適応や適用できるかについて注目している。

日本の大阪にあるキーエンスはセンサーや測定器を主要事業として、ソリューションビジネスの代表企業として知られている。キーエンスのソリューションビジネスは、強い企業理念に基づき、顧客を徹底的に知ることから始まり、千名以上の営業部隊による直販体制で、顧客価値を創り続けている。生産財企業と顧客企業とのリンケージから、そのあり方は次の四点にまとめることができる。

第一に、現場志向的営業である。キーエンスの営業部隊は基本的には数万以上の顧客企業の現場を歩き回り、顧客が困っている点を詳しく聞き、それを解決するための方法について顧客に提案する。彼らをサポートするため、3種類のデータベース、つまり、顧客情報、顧客の役に立った事例集、各業種の製造工程に関する独自の教科書を用意している。それは入社後数年で顧客の信頼を得ることができるようになる営業担当者を支える仕組みであり、常に現場へ出向いている担当者のため、本当に役立つように、自社や競合他社の商品について、技術面を含めて必死に勉強させる仕組みにもなっている。さらに、「ニーズカード」と呼ばれるフォーマットで現場から得た情報を、1人当たり月に最少2件を開発や企画部署にフィードバックする。その内容を確認するために、開発や企画関係者が営業担当者と一緒に現場を向かう場合も少なくない。このように、営業担当者は商品売るだけでなく、信頼される優れた相談役になっているため、顧客企業の現場には歓迎される。

第二に、顧客価値の創出と拡大である。現場を徹底的に知っているので、キーエンスは顧客の具体的な要望に合わせた商品ではなく、潜在的に存在するニーズを掘り起こして、新商品を提案するのである。そこで、顧客さえも通常は気づきにくいような使いやすい商品を提案することも少なくない。これまで、蛍光顕微鏡、レーザ寸法測定器、静電気除電器など多くのヒット商品を出している。各々の顧客企業のカスタマイズに応ずるには、二つの段階が見られる。最初は特定の顧客企業の現場に入り込んで、困っている箇所を確認し、顧客が気づいていないような問題解決までに結び付く新商品を開発提案する。次に、その商品をさらに他企業や産業へ横展開する。このようプロセスは正に深くニーズに応え、各々の顧客企業に広く使われることで、一種のマス・カスタマイゼーション

である。

第三に、創出価値による商品価格決定である。商品の価格決定も顧客に対する貢献の度合いからする。つまり、「自社の商品によって顧客はどれだけの価値を創出・享受できるのか」を販売価格決定の基本的な考え方としている。もちろん、異なる業界にはこの商品で得られた価値も異なるため、価格は大きく異なる場合も少なくない。要するに、顧客の現場を徹底的に知っていることは、問題解決に貢献するのみならず、顧客が支払う対価を正確に把握することができ、結果として販売価格の最大化が実現できるのである。

最後に、高付加価値業務指向である。キーエンスは自社しかできない独自性が高い業務、顧客が喜んで高い対価を支払ってくれる商品に結び付く業務に集中している。これまで述べたプロセスは、要するに、営業担当者はコンサルティング営業の能力を蓄積していくこと、ソリューション提供の能力が高まったり、提案型の売り上げが増えたり、そしてニーズカードや役に立った事例集などにもフィードバックしたりすること、さらに優れた新商品や効果的な営業活動に結び付くこと、というような相乗効果の好循環が生まれることを支えているのである。

- 産業ニュースの要約

9つの優待、4つの補助 台中市「企業本部よ、帰っていらっしやい」

【2017-08-01聯合報】

台中市政府會議は「台中市政府補助及び企業運営総合部投資実施奨励案」を通し、台中にあるメーカーの企業本部が「ふるさと」に帰って来ることで、地方税と就業率の増加を期待している。もし9つの優待と4つの補助を草案として提出せば、単一のメーカーなら同時に4つの補助が受けられ、一年最高340万元を取得することができる。

市政府が数えてみると、台中には目下62の企業メーカーがあるがその本部は他県にあり、年間収益は計1,932億元であった。一年目の固定資本額5億元以上の10企業の中には食品、科技、機械の国際的に知名度のある大手メーカーがある。

台湾工作機械及びパーツ工業会秘書長黄建中氏は「台中は資金や生産コスト、生活環境などリッチ条件も相対的に良好で、吸引力がある」と述べ、業界が政府の構想を歓迎してくれると信じている。華順鞋業董事長、頼文玉氏は、「工業用地を抽選などで決めるのは良い奨励方法だが、それが実際に運用できるかどうかはまだこれから見ていかなければならない」と述べた。

黄志芳氏：在ベトナム台湾メーカーの次なるステップは東南アジア諸国連合の内需市場に進出することだ

【2017-07-26連合報】

「新南向政策」を広げるべく、外貿協会はベトナム商業大都市ホーチミンで「台湾形象展」を開催する。外貿協會の董事長、黃志芳氏は次のように述べた。「台湾はベトナムにおいてこれまで製造業に始まり輸出まで築きあげてきた。次のステップは、台湾メーカーとベトナム企業がともに提携し、アセアン域内を無関税にし、内需市場に進出することだ。」

「ベトナムには6000超の台湾メーカー企業があり、輸出額は500億米ドルで、これはベトナムの輸出総額三分の一にあたる。ベトナムは台湾における東南アジアの中の累積投資金額最多の国で、現在に至るまですでに300億を超える。このほかにベトナムは台湾で第7番目の輸出市場だ。」

黃志芳氏はこう指摘する、「ベトナムにおける工作機械の需要はとても高まっている。例えば、食品加工機械から言えば、ベトナムのバイヤーはすでに協議を始めている。「このような製品はベトナムの経済発展にとって非常に需要がマッチしている。」さらに、ベトナムだけでなく、その他の東南アジア諸国にとっても需要があるはずだ。」

台中オートメーション化展示会 二大の脚光

【2017-07-14経済日報】

「2017台中オートメーション化工業展及びプラスゴム工業展」が台中国際展示会センターで行われた。今年の展覧会では無人化とスマート製造の二つに脚光が浴びせられた。

經濟部次長の沈榮津氏はこう述べた、「去年台湾機械の輸出は211億米ドル、総生産額9,900億元、兆まであと一步というところだった。今年前期6か月の輸出値はすでに117.5億米ドルに達しており、14.7%増となっている。台湾ドル計上で3,610億元、年間成長率7.5%、今年の生産値は確実に兆を突破できる。」

台中のオートメーション化工業展と二年に一度の台中プラスゴム工業展は、中台湾がオートメーション化機具とプラスチックゴム分野における周辺の専門展の指標となるためのもので、今年計300のメーカーが810のブースで館内を満たし、規模をさらに新しく広く作り出した。

貿易発展協会、「新南向」政策に注力、100の台湾メーカーを率いてベトナム開拓に挑む

【2017-07-07中央社】

貿易発展協会は今年32のメーカーを引率して「2017年ベトナムホーチミン工作機械展」に参加した。台湾会館に63のメーカーが出展し、最大の成果と言えば海外からの出展者で台湾が最も多かったことだ；月末にはまた150の台湾メーカーがベトナムに赴き開拓、「新南向」政策の商機に励む。

ベトナムの2017年国内総生産額成長率は6.2%、東南アジア諸国平均値より

4.9%高く、今後の五年で6%を超えると見込まれる。東南アジア市場に進出するため、中華民国對外貿易發展協會は今年ベトナムで60を超えるプロモーション活動をすすめる。

本日（7/7）貿易發展協會は、「新南向政策」に合わせて特別に国内の慶鴻、新代、全球傳動及び大光長榮など32の工作機械関連業者を引率し2017年ベトナムホーチミン工作機械展に参加した、と述べた。

貿易協會は次のように述べた、「台湾会館は統一の形態を用いた以外に、「台湾工作機械形象館」を設立し、自動車、モジュール及び重工産業などの台湾工作機械産業の優勢及び応用領域をアピールした。」

インドの先行き景気良好 貿易發展協會は台湾工作機械メーカーを率い市場を掌握

【2017-08-12中央社】

外貿協會は台湾8の工作機械企業を率いインド最大の国内販売市場工作機械展-ダリ工作機械展に参加した。メーカーはインドの商品とサービス税（GST）実施後の市場に期待を寄せており、積極的に取り組んでいる。

インド工作機械市場は世界トップ10市場だ。インド本土業者の技術と産業能力が不足しているゆえに、58%の工作機械など関連製品を海外からの輸入に頼っているため、台湾のメーカーにとって最も潜在能力が高いマーケットの一つだ。

統計によれば、インド2016年台湾のレーザー及びその他光切削の工作機械輸入金額は、前年より28.21%成長した。工作機械のパーツと付随する金額は2015年と比較して2016年は28.65%成長した。

益銓工業、翰昆五金機械と東台精機は、インドでGST実施後、税務を簡略化し、目下の成長はいまだ待機状態であるものの、将来かなりの期待を持つことができる。

貿易協會提供の資料によれば、台湾工作機械2016年インド市場向け輸出は1.61%ほどの成長だ。去年末までで既に90を超える工作機械メーカーがインド市場で活動をしており、投資は14億米ドルを超える。

工作機械の契機はどん底から回復へ 産業値向上

【2017-08-13経済日報】

工業研究院經濟と産業經濟与趨勢研究センター（IEK）の調査分析によれば、今年台湾工作機械産業の景気は谷底から上り坂で、今年工作機械の産業値は回復成長を見せるだろう。

統計によると、台湾工作機械産業2015年総生産値は1,387億で8.2%減；2016年は1,212億、12.6%減；今年の生産値は1,270億まで回復するだろうと考えられる。

工業研究院は今年の工作機械産業の景気に良い見通しがみられる理由として、三つ挙げている。まず、今年製造業全体の景気が去年よりもまだ良く、各国

工作機械消費成長に影響を与えている。その次に中国のハイエンドな製造業の発展により、航空運輸、スマート製造とオートメーション化設備の需要が高まっていることがある。第三に、米国が製造業の流れを推し進め、欧州PMIが温度を高めつつ、工作機械の需要が増え続けているという点だ。

Bry and Boschanの景気循環認定規則によると、台湾の工作機械は1991年から始まって7度目の景気循環周期を迎える。谷底から頂点まで最短周期で5シーズン、最長で11シーズン、平均7.6シーズンだ。

台銀の献策が台中のスマート機械戦略をサポート

【2017-08-30経済日報】

台湾銀行は7月29日に台中で「5+2 イノベーション産業研究討論会」を開催し、実際の行動でもって台中がグローバルなスマート機械の都となるようサポートしたいと願っている。

台湾銀行は、台中がスマート機械発展を推し進めるサポートをするべく、産業資金の需要を提供し、すでに8月4日に台中精密機械科技創新園區に支店を設立し営業を正式に開始、精機園區最初に駐在した金融機構となった。

産業の向上転換を加速するため、政府は積極的にアジアシリコンバレー、スマート機械、エコ科技、バイオテクノロジー医療、国防、新農業及び循環経済など産業のイノベーションを推進、台湾内の次の世代の産業成長の核心となるよう動いている。

行政院は「スマート機械産業推進方案」を通して、台中が発展の中心となるよう計画し、現地の精密機械産業とICTをもとにスマート技術を結び合わせ、デジタル化工作機械技術、制度の補償、故障の予測、オートパラメータ設計とオートスケジューリングなどのインダストリー4.0スマート技術の発展を目指している。

シーメンス社と友嘉グループ、デジタル企業とオートメーション化の提携を勝ち取る

【2017-09-26 経済日報】

グローバル自動化設備大手メーカーシーメンス社モーションコントロール事業部執行長Wolfgang Heuring氏は、友嘉グループ総裁朱志洋氏と欧州工作機械大覧会で共同提携することに調印し、深く長いパートナー関係を結んだ。

提携の主な内容は、シーメンスのデジタル企業ソフトセット及び開放式工業クラウドMindSphereを友嘉グループに導入することだ。MindSphereのアーキテクチャを取り入れ、機械製造メーカーが幅広い専門知識を運用できるようにし、機械操作員が使える高性能な機械を開発、製造メーカーと協力して競争に優勢になれるよう、全面的に新たなサービスと商業様式を築く。

今回の提携はライフサイクル管理を含んでおり、運営管理を作り出すことと全方面でオートメーション化を整えること、並びにシーメンスデジタル企業ソフ

トセットの完成製品を友嘉グループと90を超える付属会社に導入することが含まれる。

ハノーファー世界工作機械展 台湾メーカーは100億のオフア受ける

【2017-09-18 経済日報】

18日ドイツのハノーファーで、世界最大の世界工作機械展(EMO)が開催、台湾工作機械工業会は今年現場で少なくとも100億台湾ドルを超える金額のオフアを受け、良い兆しがみられる。台湾機械工業会理事長柯拔希氏は次のように述べた。「去年台湾工作機械輸出額は28.9億米ドルで9%減少したが、経済情勢が徐々に好転を迎え、今年前8か月の輸出はすでに21.3億米ドルに達しており、14.3%増加した。またハノーファー世界工作機械展で来年の輸出は更なる盛り上がりを期待できるだろう。」

今回のハノーファー世界工作機械展では2,200の国のメーカーから参加し、ドイツのメーカーを除いて、参加したメーカー数は、イタリア、台湾、大陸、スイス、日本などが並ぶ。台湾は計187のメーカーが参加し、世界で第三番目の参加国として欧州市場への強い開拓野心をみせた。

今年の展覧会は「スマート製造ネットワーク」を主軸として、台湾メーカー展は最新の複合加工機を含む五軸加工センター、CNC機台が利用するパーツを出展、並びに単品機械のスマート化に重点を置き、航空産業高精度オートメーション化製造過程の需要やオートメーション化無人工場生産の流れに合わせた。

「台中とインド商業貿易文化フォーラム」開催

【2017-09-29 経済日報】

台中市経済発展局、インド台北協会、台中市工業策進会は29日に共同で「台中とインド商業貿易文化フォーラム」を開催、台中市長の林佳龍氏は経済発展局長呂曜志氏と共に、台中産業の特色と政策の方向性をシェアした。テーマには二面からなる経済貿易の現況と展望、インドのモディ総理による経済改革政策の影響、双方提携による政策及び産官学研の交流契機などが含まれた。

林佳龍氏は次のように述べた。「東南アジア諸国10か国に7億の人口、さらにインドを主に南アジアも含めれば17億になるこのことは、台湾が重視すべき貿易パートナーで、新南向政策がただ東南アジア諸国10か国に限ったものでなく、さらに南アジアをも開拓していく必要があることがわかる。」

インド台北協会会長史達仁氏もこう述べている。「インドはまさにデジタル化、紡績、工作機械などの政策に向けて駆動しており、台湾の新南向政策にもマッチする部分がある。さらに台中は台湾の主要な産業都市で、もしお互いが経済貿易、文化、観光などの面で協力しあえば、今後winwinな関係を促進できるであろう。」

台湾金属展覧会 10月11日から台中で開催

【2017-09-27 経済日報】

台湾手道具工作機械工業会主催の「2017台湾金属展覧会」が10月11日から13日高速鉄道台中駅の台中國際展覧会館で行われる。台中市長林佳龍氏は「今年409のメーカーが参加、約70か国のバイヤーが展覧会に訪れ、250億元のオーダーも可能だと予測している。」と述べた。

林佳龍氏は次のように述べた。「台湾金属産業は世界の手道具製品の生産製造大国であるし、台中は台湾金属産業の主な発信源地でもある。約70%の業者がみな大台中地区に集まり、展覧会は台中に移動して5年連続で行っている。出展規模を年々拡大しているだけでなく、展示の効力も年ごとに上昇している。」

林佳龍氏はこうも述べている。「台中の完璧に整えられた産業集積は、工作機械、パーツ、航空産業、自転車などの産業チェーンが含まれ、国内外の投資にかなり大きな吸引力がある。将来的にインダストリー4.0やスマートタウンの発展が続き、更なる研究開発とイノベーション能力、技術の進歩が必要となる。」